

音楽科業改善報告

コロナ禍も3年目となり主に歌唱表現が制限される中、手拍子と足踏みを使って表現する「Plymouth Rock」をソルフェージュの一環として行ってきました。二重奏の面白さ、二重奏が故の難しさがあり、大変良い教材であると思っています。今年度は「Plymouth Rock」の導入、音価やリズムパターンのさらなる理解のために、リズム創作にも取り組みました。

◇学習活動

※今年度研究授業は行っていません。

対象 1学年1組～7組(160人)

授業者 佐々木詠衣子

科目 音楽I

単元 パートの役割を考えながら手拍子や足踏みを工夫して演奏しよう。

- 学習活動
- ・「Plymouth Rock」に入る前に、1拍のリズムパターン8分音符、16分音符のいろいろなパターンを学習する。(言葉を付けて手拍子する)
 - ・32分音符までのリズム創作を行う。(はじめは1小節を4人で完成させる。→その後個人で8小節のリズム譜を創作し披露する。→全員で演奏する)
 - ・「Plymouth Rock」I IIの譜読み。
 - ・4人一組になりI, II 2人ずつでパートを練習。
 - ・演奏が困難な場合はまず、休符を同じ音価の音符に置き換えて演奏し、その後徐々に休符に戻していくなど段階的な練習方法を取り入れる。
 - ・各パートを演奏できるようになったらグループでどのように工夫したらより楽しいアンサンブルになるのかアイデアを出し合って練習する。
 - ・発表する。

◇研究授業の成果と今後の課題

【成果】

リズム創作では、より難解なリズムをつくらうとする意欲にあふれた生徒が多く、提出された作品を見るのが大変楽しかった。次年度は、演奏しやすいように記譜できるよう、拍子の概念、拍についてももう少し時間をかけたい。「Plymouth Rock」の楽譜は、最大で8分音符までの曲であるが、二重奏で休符や裏拍によって、自分のパートが脅かされる部分が多くあり、苦労もあったが、各チームとも、練習方法の工夫がみられ、親和的に練習を積み重ねることができた。発表時にはダイナミクスの変化をつけ、表現を生かしたり、最後の小節の「決め」の音符の表現を工夫したり、互いに楽しく演奏できた。次年度は曲中に創作譜を入れるなどしてみたい。

【課題】

基礎知識の理解を深める目的で、コンコーネ、コールユーブンゲンとともにリズムに取り組んでいるが、限られた時間のなかで、システムテックにできる方法を今後も探っていきたい。

音美書三科に共通することとして、手狭な教室と備品不足のなかでの日々の活動が課題としてあげられる。学ぶことや表現するための高い基礎力を持つ生徒たちが、さらにその力を磨き、十分に発揮できるようにしていくためには、表現活動そのものを鍛錬する必要はもちろん、表現されている視野を広げることが重要で、その環境を整えていくことは芸術科の重要課題であると考えている。